



令和8年7月15日
小田原市立矢作幼稚園
園長 石川 浩一

令和7年度に初めて園長として矢作幼稚園に着任して、引き続き今年度もお世話になることになりました石川浩一です。保護者の皆様の温かなお心遣い、地域の方のサポート、子どもたちの澄み切った心と笑顔、本園職員の皆さんのチームワーク等、言い尽くせないほどの方々のおかげで楽しく園づくりができました。ありがとうございました。

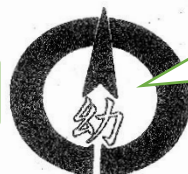
「幼稚園の数が確実に減っている事情の中で、**この矢作幼稚園を選んでいただいたことに感謝する働き方をしよう**」と私は常々職員に伝えてきました。一人ひとりの職員がその感謝を具体的な言動でどう表そうとしていたか見つめてきました。皆様の期待に応えることができていたでしょうか。私自身は反省すべき点が多々あります。未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、共通理解・共通指導等、安心安全の基本をしっかりと固め、「また明日も行きたくなる幼稚園」の基礎を築くにはまだまだ改善しなくてはならないことがたくさんありました。



2年目を迎え、これまでの経験を活かし、「**園に関する取り組みの見える化**」に努力していこうと思います。何が変わりどう良くなったかが、感覚的に、実感的に、現実的に「**見える・わかる・できる**」を進めていきます。課題は出てきても、みんなで知恵を出し合い、乗り越えていく逞しさがほしいです。(具体的内容は後述)



矢作幼稚園が目指す姿



開園記念日

5月1日開園、今52歳です

今年度の幼稚園経営・運営に関する具体的な構造や姿等はホームページのほうをご覧ください。その中でいくつか紹介します。(グランドデザインに示されている事柄です)

□教育目標は、「温かな心でかわかり、一緒に過ごす楽しさが味わえる子どもの育成」としました。

温かな心は人と人とのかわかりの中でつくられていきます。話す・聞くの関係では、「共感的に聞く態度」を育てます。共感的に聞くとは、相手の考えや思い等を一度受け止め、自分なりに理解してから、相手に返す、それは相手の側に立って聞くことです。相手が受け入れるように聞いてくれると、心は安定して温かくなり、一緒に過ごす喜びも実感できるようになります。一人ひとりが温かな関係の中で、自分らしさが伸び伸びと出せるようにしたいと願っています。



□教育方針は、「幼稚園らしさを大切にしたい教育の実現」としました。

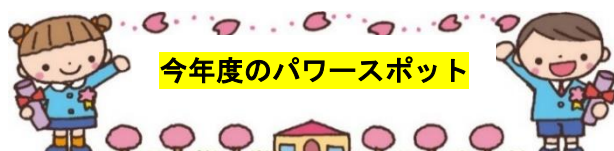
「幼稚園ならではの」「幼稚園のときにしかできない」幼稚園の教育活動を、企画・運営・体験させるようにすることです。決して「小学校のミニ版」にならないように心がけることが必要です。小学校との大きな違いは、「**子どもと保護者の距離が近い**」ということです。子どもと一緒に保護者も成長できる絶好のチャンスです。保護者を取り込んだ教育を実現し、共に歩んでいける体験が学びにつながるように工夫することが大切です。難しいことはありません。手伝ってもらってもいいです。我が子と一緒に取り組むことがまずは大切な第一歩です。私たちが気付かないまま通り過ぎてしまった子どもと保護者との距離感を、今一度キャッチできる場や機会を探すことが必要です。ご協力と応援をよろしくお願いします。



□教育目標を実現するための手立ては、「やはぎっ子育成プランの作成と実践」としました。

健康・人間関係・環境・言葉・表現の5つの領域を、子どもたちが効果的にかつ積極的に経験できる場や機会を、1年間を通して意図的・計画的・組織的に仕組んだプランづくりをしています。

そうすることで、知・徳・体のバランスの取れた学びが多い過ごし方ができるようにしています。日々の実践の中には、「見える化」の手立てと工夫を常に意識し、「環境」と「援助」の充実化に取り組むようにします。



(簡潔版) 詳細はホームページ	1学期 4～7月	2学期 9～12月	3学期 1～3月
大切にしている キーワード	出会い	共に生きる	別れ
かかわり合う 場や機会	随時ホームページ掲載(発信)		
子どもの 成長の姿	慣れる	親しむ	生かす
子どもの 学びの姿	わかる	できる	楽しむ

今年度は、特に「園に関する取り組みの見える化」に努力していき、何が変わりどうよかったかが現実的に、ときに感覚的に「見える・わかる・できる」となるように進めていきます。具体的な手立ての取り組みとして現在までの様子を紹介します。

■学級担任の2人制

副担任として位置付けるのではなく、両者(A・B)とも担任とすることで、それぞれがよりしっかり責任をもって一人ひとりの子ども(C児)と向き合えるようにしました。

基本的にはA・B1か月交代制をしています。Aが担任をしているときはBはC児をより詳しく見て実態把握ができます。交代後Bは担任をした時、前の実態把握からより寄り添った指導がC児にできることにつながります。

それに伴って、一人の子どもにいつも同じ介助の先生が担当するかかわり方から、介助の先生のローテーションをつくり、より多くの介助の先生が一人の子どもを担当するかかわり方に変えました。そのローテーションの中にはもう一人の担任も入るように工夫しています。そうすることで、一人ひとりの子を多くの目線で見て、より寄り添った指導ができるようにしています。



■コドモンの活用

月1回の園だより「やはぎっ子の一日」の配布から、コドモンでタイムリーな子どもの様子を配信していくことに変更しました。そうすることで、日々子どもの姿が見えるようになり、園の活動内容がわかり、いつでも手軽に園生活の実態把握がしやすくなりました。

プール利用体調チェックでは、紙面からコドモンに切り替えたことで、その日の体調がすぐにわかり、早く正確に状態をつかむことができ未提出防止につながっています。アンケート調査も同様の効果が表れています。写真販売についても、コドモンの機能を活用して個人的に手に入るようになる予定です。そうなれば毎年の保護者による写真販売もなくなります。

■園行事・活動の活性化

季節を感じる環境づくりにも取り組んでいます。こいのぼりを園庭に飾ったり、七夕の笹飾りをつくったり等子どもの興味・関心が広がり、親子の会話のきっかけになったり、絵本を探して調べてみたりするようになりました。



収穫した野菜を今まで以上に安全な環境の中で調理して味わえるようにしました。オニオンリング、ポテトサラダ、フライドポテトが新メニューで、どの子も興味津々でおいしく味わっていました。自宅に戻ると「園と同じものを作って」と頼む子どももいたようです。

新しく「スイカ」の栽培にもチャレンジしています。どこに実ができるのか知らなかったことが見えることで驚きにつながっています。

2学年合同の遠足を実施しました。春は親子で一緒に遠足ですが、秋は、今回は江ノ島水族館に子どもたちだけで行きます。ちょっぴり成長した子どもたちのワクワクドキドキ体験になります。新しい発見が楽しめるようにします。

運動会も暑さに配慮した取り組み、演出の導入応援グッズづくり、・自己紹介アナウンス、新種目の設定等、形式的な運営に縛られない思い出に残る運動会を目指してアイデアを出し合っています。



■ ボランティア活動の活性化

スクールボランティアコーディネーターとの打ち合わせを毎学期1回設け、園長・副園長とともに園づくりに向けた情報交換をしています。そうすることで、お互いが園児の育ちに役立てられる活動を継続的に、またタイムリーに、実践できるようにしています。より多くの方が気軽に参加できるように活動内容を工夫し、皆さんに呼びかけています。ぜひ参加して楽しく園づくりを体験してみてください。



読み聞かせでは、初めてお父さんが登場し、自身の子ども時代に読んでいた本をもってきて読んでくれました。子どもたちはとても楽しそうに聞き入っていました。お父さんもやればできるところを見せて家族のヒーローになってください。



担任からのサポート要請も引き受けていただいています。シャボン玉・ボディペインティング、野菜の栽培・収穫等のお手伝いに活躍いただいています。

■ P T A組織のスリム化

役員会が中心となり、運営委員会と連携を図る中で、園づくりを支援しています。今までは、さまざまな委員会がありましたが、園児数の減少に伴い、保護者数も減少してきたので、できる範囲で取り組める委員会のみにすることにしました。現在は、学級委員のみとなっています。主な仕事として、学級の取りまとめのほか、清掃活動を担っています。写真販売は、上述のようにコドモンのほうへ移行していきます。

このような流れの中で、仕事の内容を見直していくと、〇〇委員ではなく〇〇係でもよいのではないかと思います。自分たちの小学校時代のように係活動としてその活動のまとめ役を請け負うような位置づけでも成立するのではないのでしょうか。今後、社会情勢に合わせて、みんなに優しい組織づくりができるよう検討を続けていきます。

■ 働き方改革

最近よく目にしたり耳にしたりする言葉、「働き方改革」。どこの職場でも取り組みが見られています。質を落とさず量を減らすことが大切です。言い換えれば、子どもの育ちのための保育の質は落とさず、仕事の仕方を上手に工夫して園づくりを進めていくことが大切です。工夫することで生まれた時間を保育のための時間として使えるよう努力することが重要です。

今年度は、特に介助のスタッフが保育にかかわることに集中できるように、教材・教具・用具の後片づけ・整理・掃除等は、クラスにかかわるスタッフ以外の職員が受け持つことにしました。





第1回幼稚園関係者委員会が開催されました（令和8年5月26日）

委員の方は、次の9名です。例年決められた役職となっています。子どもたちの様子を参観し、園づくりの貴重なご意見をいただきます。

- ・岩田 真由美（矢作小学校校長）
- ・山村 健蔵（下府中地区自治会連合会会長）
- ・荒木 慶市（下府中地区社会福祉協議会会長）
- ・川本 裕之（下府中地区体育振興会会長）
- ・官野 稔（矢作地区自治会会長）
- ・山室 恵子（下府中地区主任児童委員）
- ・星野 奈穂美（矢作幼稚園保護者と教師の会会長）
- ・石川 浩一（矢作幼稚園園長）
- ・瀬戸 見和（矢作幼稚園副園長）

保育を参観していくつかのご感想をいただきました。簡単に紹介します。

- ・田植え、タニシ、シオカラトンボ、ビワの実、箱根の山等、豊かな景色の中で温かな言葉が生まれてくるのだろう。
- ・今の時代は”危ない”と制限されがちだが、園庭が自由に使える環境がとてもよい。
- ・一人ひとりの子どもがやりたいことに進んで取り組む姿がよかった。
- ・自由にやりたいことをできる環境がとてもよい。小学校に行くとき型にはめる、時間に沿って動くことになる。幼稚園の生活と小学校の生活にギャップが生まれてしまうことが課題でもあるので、幼稚園との連携を大切にしたい。
- ・家では「ハサミは危ないからすぐしまっ」と言いがちだが、手順などいねいに教えれば安全にできるようになると思った。



秋山 榮太郎（R7下府中地区社会福祉協議会会長）様、卯月 玲子（R7下府中地区主任児童委員）様、長い間、園づくりにご尽力いただきありがとうございました。いただいた貴重なご意見・ご感想は、今後の園づくりに活かせるよう努力してまいります。



保育参観・弁当参観・学級懇談会アンケートより

たくさんのご感想やご意見をいただきありがとうございました。いくつか紹介します。

（※短期間に、何回も来園していただくのではなく、もう少し整理して来園回数を少なくしたいと思います。）

- ・家では見られないような姿だったり幼稚園でのルールなど自分なりに頑張る姿が見れたので良かったです。
- ・ルールのある集団遊び（リレー）にちゃんと理解をした上で参加できている姿がみれて感動しました。
- ・普段通りにできなかった事もあったみたいですが、先生達が必ず寄り添っていただき、子どもの意見も尊重してもらっている様子も感じ取れて良かったです。
- ・普段の生活の様子やお弁当の様子等、普段見れない幼稚園での行動が見れて良かったです。子どものできるようになったことが色々とわかりました。
- ・緊張しつつも自宅とは違った一面も見れて良かったです。お弁当準備、お弁当片付けちゃんと出来る事に驚き成長が見れた事、嬉しかったです。
- ・実際に楽しそうに友達とおしゃべりをしながら遊びを進めている姿を見て、1年前の参観からの大きな変化と成長をより感じる事ができました。
- ・家とは違う一面が見れて嬉しかったのでこのような機会があるとありがたいです。これからも楽しみにしています。
- ・懇談会ではお母さん同士の悩みや現状に共感や発見を見つける事で、これから話しかけやすいきっかけができた様に思います。担任の先生から園児一人ひとりの幼稚園の様子を教えていただき、お友達がどんな子なのかも知れたし、我が子の楽しみながら頑張っている姿も知れてとても嬉しかったです。

